

## 令和7年度 第1回公立鳥取環境大学:教育研究審議会 議事要旨

- 日 時 令和7年6月25日（水） 10：30～12：03
- 場 所 本部講義棟3階 大会議室（対面+オンライン会議）
- 出席者 小林朋道委員、石井実委員、植田紀子委員、足羽英樹委員、中山実郎委員、根本昌彦委員、張漢賢委員、吉田高文委員  
[8名/12名]
- 欠席者 宇佐美誠委員、坂口裕樹委員、河井登志夫委員、今井正和委員

### 【議事】

#### 1 前回議事要旨の確認

原案のとおり承認された。

#### 2 審議事項

##### （1）第3期中期目標期間にかかる中期計画進捗管理について

事務局から第3期中期目標期間にかかる中期計画進捗管理について説明があり、案のとおり承認された。

〈主な意見等〉

- ・ 「大学の教育等の質の向上に関する目標」の中の「競争的外部資金」の獲得が30%とかなり高いレベルであると思うが、その内訳を伺いたい。主に文科省の科研費か。それ以外にもあつたら教えていただきたい。
- 近況報告に内訳を記載しているが、科学研究費助成事業19件、その他の公募型研究助成3件となっている。
- ・ 30%には受託研究、共同研究は含まれているのか。
- 受託研究、共同研究は含まれていない。
- ・ 科研費については、基盤研究AやBも含まれているなど、よく頑張っている。
- ・ 県内就職率について令和6年度20%で△という評価だったが、全国45都道府県から学生がたくさん来ている中で、この20%の内訳は、県内出身者が県内に就職という状況ですか。
- 県内就職率20%ですが、県内出身者の県内企業就職率は65.5%となっている。県外から来た学生の中にも県内に就職した学生もいる。
- ・ 県内への就職というのは、今後ますます必要性が高まっていく中で、県内の生徒が環境大学で学び、県内でその力を発揮していただくという良いサイクルになれば良いなと思っている。その土台となる県内入学率の向上が21.6%でちょっと目標に届いていない。学長には県内高校全校を回っていただいて校長との面談、進路担当者との協議など色々尽力いただいた。県の教育委員会としても是非ともここの強化の協力をしたい、この環境大学で学ぶ意味、環境大学の存在をもっともっとPRして、高校生が進路選択の俎上に上るように何とか我々も協力したいと思っているが、こうして学校を訪問されてそれぞれの学校では、どんな感触なのかその辺りを教えていただきたい。
- 昨年学長になってから全校を訪問して主に校長先生とお話をしてきた。生徒一人一人を本当に大切に育てていらっしゃるのが良く解る。県内出身で本学に進学していただいた高校生の方にしっかりと寄り添って教育していきたいと強く持ったところです。全国45県から来て中々県内だけでは定員を満たさないので、いろいろな所から来てもらっているが、その学生にも県内定着という事を進めていかないといけないと思っている。個人的に今まで卒業生との関わりの中で「鳥取県の方は非常にやさしい、受け入れてくれる」と、「地域との関わりの中で深入

りをしない」と非常に良い印象を持っているとよく聞く。例えば東部で言うと「若桜、智頭、八頭」とかに行ってそういうところに住みたいと希望を持つ学生もいる。一番大きいのは「地域の人との繋がり」。そういう辺りも重視しながら。何人かから「他県と比べて家賃が高い」という意見がある。古民家の協議会とか作って価格などを決めているようだが、やはり定着する時に一つのネックになると聞いていている。そういうところも考えていただきたい。今回初めて「県内だけの企業」との対面でのインターンシップフェアを開催した。高校まで鳥取に住んでいても会社の事業の事をなかなか知らない。意外と働くという事をリアルに考えていないんだなと思った。以前は県内企業だけではなかなか学生が集まらなかつたけど、工夫して沢山の学生に集まつてもらって聞いてもらつた。全国の人口の単位当たりで「ベンチャー（起業）」を試みていく人の人数が鳥取県が一番だと聞いている。ですから鳥取県で新しい取り組みをしようとしている人たちは鳥取県の独自性というか定着にも重要な点かなと思っている。先程の1.2年生対象の県内企業だけのインターンシップの説明会を開催し、これに対しては、ふるさと定住機構の会議でも「非常にありがたい取り組みだ」と高く評価されました。県からも協力的に関わっていただき、非常に意義のあるものだと今後も継続していきたい。県外学生の県内就職についても県外の学生が県内で就職したのも4年間の中で考えが変わったと言っている。例えばアルバイト先の人間関係が非常によく、親切にしていただいたと、住んでいるアパートの大家さんが非常に子供のように可愛がってくれたと言う様なことがあり、鳥取で就職して暮らすことにした、という学生たちが何人かいます。鳥取の学生でもふるさとの制度を知らない学生もいて、プロ研の時に地元の制度を掘り下げてみようという事を行う機会があった。その中でみんなが特徴的に先ず捕らえたことは「子育て支援」。他県と比較してもこんなに手厚いところは無いなど。自治体の大小はあるにせよ押し並べて手厚いなど。そういうことで「将来自分もここで外に出ないで子育て考えてみようかな」と報告する学生もいた。やっぱりいろいろと知られていないなど、高校生の段階ではそういうところまで関心を持っていないなど。これから情報だけでなく、気づきの場をどんどん与えていくという事が重要で、その辺りが将来設計についてこの4年間でどうやって我々が提供して彼らの人生プランを作つてあげるか、そんなサポートの重要性を改めて再認識している。

- 大学で頑張っていただく事、その前段階で高校段階で県内の事をよく知る、また子育て支援の制度がある事、やはり高校生はまだまだ関心が低いと思っているので、県内就職、県内入学者の増につなげる意味でも教育委員会としても是非高校生にもっとよく地域、地元の事を知ること、制度を知ること、また大学、高等教育機関が県内にしっかりとした大学、短大がある事、この発信を我々も務めていきたい。今問題意識を持っていることは高校生段階でもっと下地が作れたらこうした率も上がつてくるのではないかと思っている。この辺りの連携をより深めさせていただきながら進めていきたい。
- 先日のインターンシップの取り組みは良かった。今後もこういう取り組みを継続して続けていただきたい。地域で活動している学生を見ると県外から来ている学生の方が多いようで、地元の子、親元にいてという子の方が何をしているのかわからない。自分の学力の中で見合った学校とかやりたいことの中で漫然と学生生活を送っている子が多いのではないかと思っている。やはり地元、鳥取の子をどう活性化させるかというというのが、入学してからの1番の課題ではないかと思う。先程の地元の子が地元の事を知らないという意見があったが、本当にその通りだと思っている。地域の事を知らない。大学に入ってからその辺りをフォローしてもらうのはちょっと違うんじゃないかなと思いながらもそこに頼らざるを得ない現実がある中で、どうしていくのかというのか、鳥取の子どもたちとか、環境大学の課題の1つになっているのではないかと思っている。県外から意識を持ってきている子供たちに比べて鳥取の子はちょっと薄いんじゃないかなと思う。企業との連携の中でインターンシップの取り組みは、企業側にとってもインターンシップがきっかけになって就職に繋がるケースが多々ある。インターンシップとは別に企業のアルバイトの斡旋について大学の方で仕組みという事が出来るのかどうなのか。出来るのであれば、インターンシップ

という学びの場の提供だけではなく、労働力の対価としてアルバイト代を払う、それが就業経験にもなるし、経済的支援にもなるのであれば、その辺りも考えてみたい。

- アルバイトの紹介を学生にする仕組みがある。企業からの求人をいただいて紹介している。県外出身者の卒業生でそのまま定着した子、外に出て鳥取が良いと戻ってきた子の話を聞いてみると鳥取県にすごく愛着を持っている。例えばアルバイトで働くというのもあるかなと思いまして、まだまだ掘り起しが出来ていない。小さな企業ですとあまり大学にアルバイトという形で申請をされていないところもあるようになっていて。そういうところも直接話に行って情報を得て彼らの方から大学の方に「こういう企業がありますよ」とか若桜、智頭とかで人手不足があるので需要は有るから期間を決めて、そういうところでのアルバイトという形での接触の仕方が良い方向に向かう可能性があるのではないか。去年から科目としてアルバイトではなく長期間地域に出て色々な体験をしてほしい。それは仕事とか企業も含まれるが、団体とか協議会とか何かベンチャー的な事を起こそうとしているところとか、もちろんこちらでしっかりと面談等を行って学生の教育というところでしっかりと考えていただけるところを選んでいる。そういうところでいろんな面で接する。仕事だけではなく日常的な所での会話とかそういうところも含めて働く事の働くことの大切さとか鳥取での生活とか全部含めた体験をするという、それが学生の成長にとってすごく大きいし鳥取の良さとかそういうことを感じる場になる。

### 3 報告事項

#### (1) 令和6年度決算について

事務局から令和6年度予算の補正について報告があった。

#### (2) 近況報告

事務局から近況報告があった。

〈主な意見等〉

- ・ 大学院の入学者のうち留学生が、環境学1人、経営学3人となっているが、どのような努力をされたのか。若しくは協定校から受け入れたのか教えて欲しい。
- 留学生については、特に努力はしていない。希望した留学生の大半は他大学に在籍していた学生で、直接希望する教員にメールで問い合わせをしてくる。ただ留学生は留学生のネットワークがあるのか1人を受け入れるような形で進めていくとまた違う学生から希望が出てくると言う様な形でこちらから見れば良い循環でちょっとずつ増えてきている。今の段階で来年度の留学生の受験希望者からの問い合わせが数件来ている。実際に取って行くと増える可能性もある。
- ・ 良い循環になっていると思う。

### 4 その他

### 5 閉会